

# 河合町北西部の文化財案内



西安寺跡  
(王寺町)

岩才池北古墳  
(王寺町)

舟戸・西岡遺跡

フジ山古墳  
フジ山遺跡

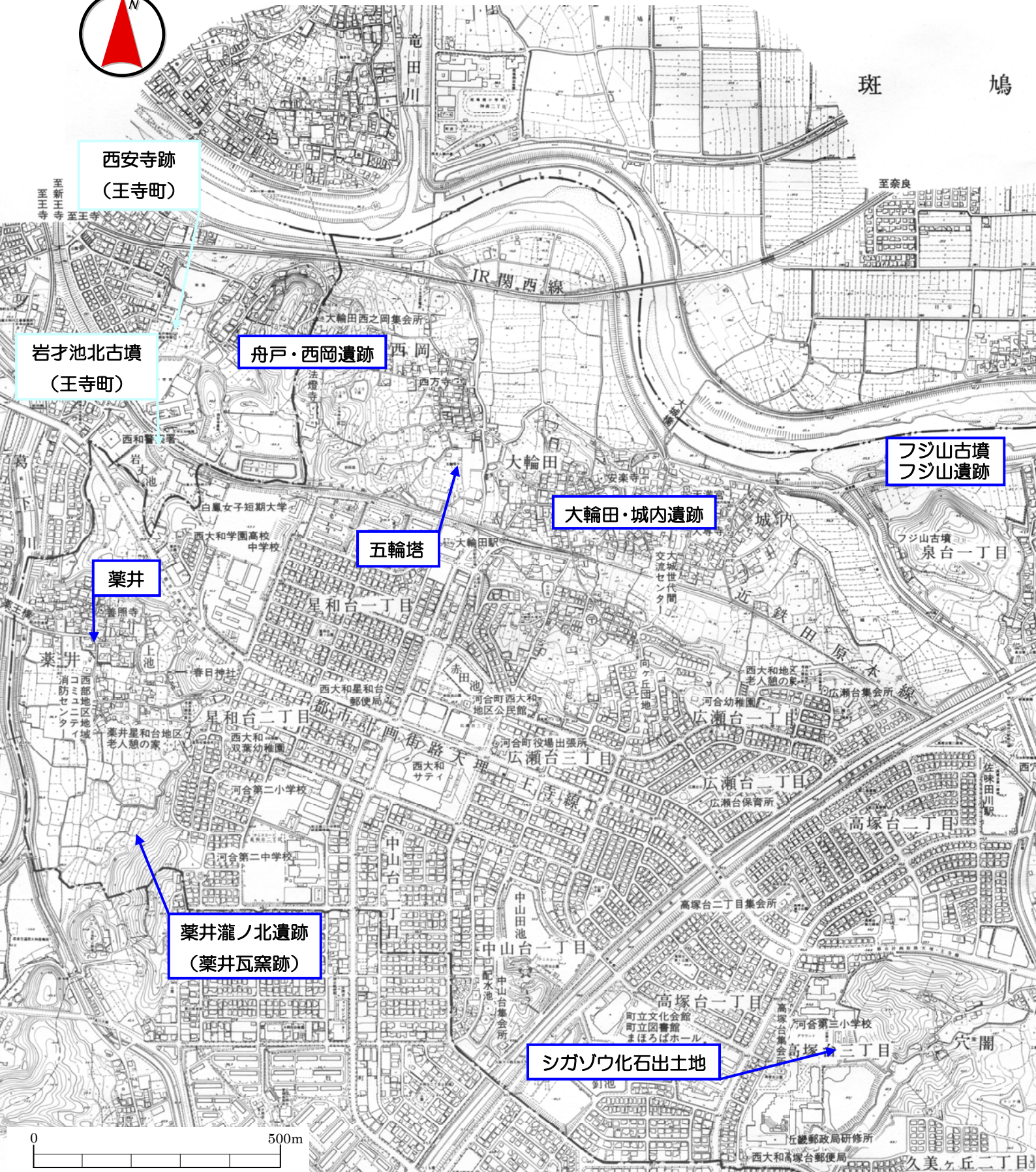
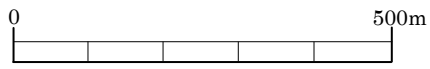
大輪田・城内遺跡

五輪塔

薬井

薬井瀧ノ北遺跡  
(薬井瓦窯跡)

シガソウ化石出土地



## 大輪田の五輪塔

所在地：大輪田字別所山

種 別：五輪塔

時 代：室町時代

規 模：総高142cm

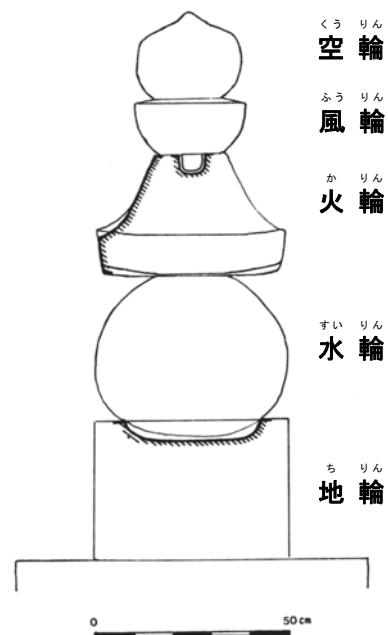
大輪田・城内遺跡の西に完全な形をとどめる五輪塔があります。花崗岩製で、総高は142cmを測ります。

記年銘はなく、製作年代は不明ですが、形状の特徴から室町時代初期の製作と推定されています。

大輪田氏の墓と伝えられていますが、個人名は伝えられていません。また、元から現在の位置にあったのではなく、大輪田の集落の近くから移築されたものとも伝えられています。



五輪塔全景



五輪塔実測図  
(『河合町史』より)

ふなと・にしのおかいせき  
舟戸・西岡遺跡

所在地：大輪田字西ノ山・西岡代他、  
王寺町舟戸三丁目

種 別：集落・高地性集落、遺物散布地

時 代：弥生時代後期、古墳時代～

規 模：東西約500m×南北約400m

河合町大輪田西岡地区と王寺町舟戸三丁目にまたがる遺跡。西岡では古くより弥生土器や石包丁が採取され、弥生時代の遺跡と認識されていました。平成9年3月、舟戸山頂部の畑地で農作業中に偶然弥生土器が多数出土しました。その後の発掘調査により弥生時代後期の住居跡が検出され、高地性集落と考えられるようになりました。

また、河合町側でも平成13年以降発掘調査を実施し、弥生時代の遺物だけではなく、古墳時代以降の遺物も多く出土しています。掘立柱跡も検出されています。このような状況から、山頂部には高地性集落築かれ、東側に広がる緩斜面には日常生活を営む集落があったのではないかと考えられます。また、古墳時代以降も大和川の水運を監視する役割を担った建物等の存在が想定されます。



舟戸・西岡遺跡調査地位置図



大和川と舟戸・西岡遺跡(南東から)



舟戸・西岡遺跡航空写真(東から)

くすりい  
薬井

所在地：薬井字東垣内

種 別：井戸

時 代：不明

規 模：東西約1.2m×南北約1.2m

石の井筒を施した掘り抜き井戸で、弘法大師がこの村にやってきた時に掘ったものと伝えられ、眼の病気によく効く薬水と言われています。

現在の井筒は掘削当時のものではないと思われませんが、鎌倉時代の史料に「薬井」の地名が見え、鎌倉時代以前に名水の井戸が存在したことを裏付けています。また、薬井の地名はこの井戸に由来するものと考えられます。



薬井

こうたき くすり い せ き たきのきた が ようせき  
香滝・薬井遺跡 (薬井瀧ノ北遺跡・薬井瓦窯跡)

所在地：薬井字瀧ノ北・藤ノ木・宮ノ後、  
王寺町畠田一丁目

種 別：遺物散布地、 瓦窯跡

時 代：旧石器時代～、 奈良時代

規 模：東西約250m×南北約400m

平成 16 年 2 月～ 3 月に発掘調査を行うまでは薬井地内では全く発掘調査は実施されておらず、遺跡の内容は不明でした。初めての発掘調査により、破損した瓦や炭が多量に出土し、瓦窯の存在が明らかになりました。出土した瓦の中に奈良時代初期の悲劇の宰相といわれる長屋王の邸や関連する寺院に用いられた瓦と同型のものが多数ありました。調査地周辺での瓦の散布状況などから、複数の瓦窯が存在するものと思われます。また、工房等の建物跡も残っている可能性があります。遺跡の所在地は古代から「片岡」と称される地域に含まれます。この地域には長屋王家の「片岡御菌」があり、蔬菜類を進上していました。「御菌 (みその)」には蔬菜類の他にも薬草や瓦等の建築資材や生活用品の生産・製造所としての役割があったのではないかと考えられます。

また、静香苑建設に伴う発掘調査では王寺町域から旧石器時代以降のさまざまな遺物が出土し、瓦窯や静香苑周辺の丘陵地には各時代の遺構が存在すると推測されようになりました。丘陵部分では旧石器時代人や縄文時代人の活発な活動の様子が窺えます。また、中世片岡城に密接に関わる遺構も存在する可能性があります。



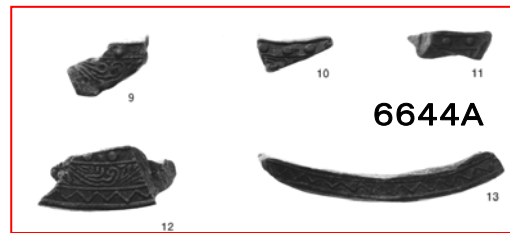
香滝・薬井遺跡航空写真(北から)



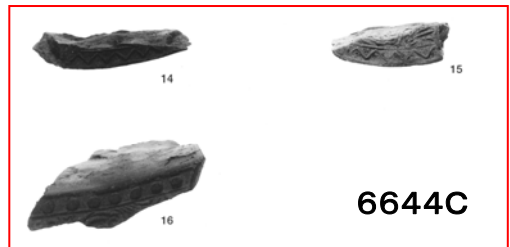
瓦窯跡(灰原)発掘調査状況



偏行唐草文軒平瓦 6644A



6644A



6644C

偏行唐草文軒平瓦



6272A



6272B

複弁蓮華文軒丸瓦

おおわだ じょうないいせき  
大輪田・城内遺跡

所在地：大輪田・城内  
種 別：城館跡（大輪田城）  
時 代：中世  
規 模：東西 900m×南北 400m

大和川を望む丘陵上に位置する遺跡で、城内の畑地を中心に中近世の遺物が集中して散布しています。現在の大輪田・城内の集落と周辺の畑に重なっています。小字名に中屋敷・北ハサマ・出口・高屋・広田（城田）・馬場崎等があり、中世豪族・大輪田氏の大輪田城跡と考えられます。

平成 19 年 7 月に実施した調査により弥生土器の破片やサヌカイトが出土し、当該地域には弥生時代の遺跡も存在することが推定できるようになりました。



大輪田・城内遺跡遠景（北・大和川対岸から）

ふじやまいせき  
フジ山遺跡

所在地：泉台一丁目  
種 別：遺物散布地  
時 代：旧石器時代  
規 模：東西約 200m×南北約 150m

佐味田川と大和川の合流点に位置するフジ山の東側山頂付近で約 1 万年前の旧石器時代のナイフ形石器や剥片が採集されています。

フジ山古墳

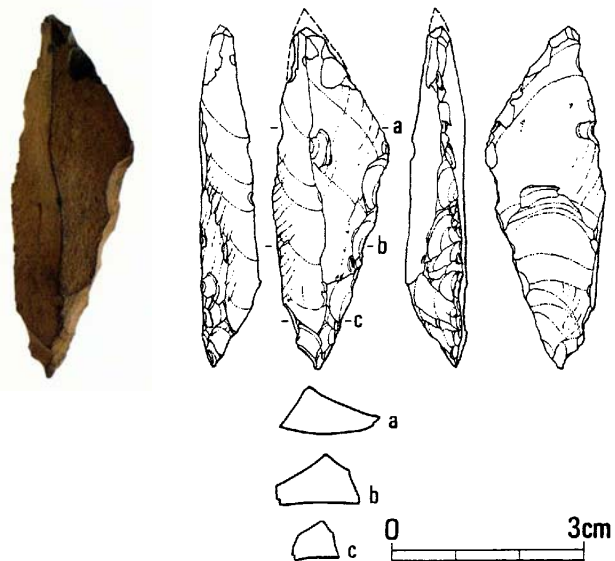
所在地：泉台一丁目  
種 別：古墳  
時 代：古墳時代  
規 模：直径約 40m

また、西側山頂部には直径 40m を測る大型円墳のフジ山古墳があります。フジ山全体が前方後円墳のように見えますが、実際はそうではありません。

墳頂部は大きく窪み、埋葬施設は失われているようです。墳丘の周辺には葺石として用いられたと思われる石材が散乱しています。立地や葺石の存在から古墳時代前期～中期の古墳と思われるのですが、築造時期は不明です。

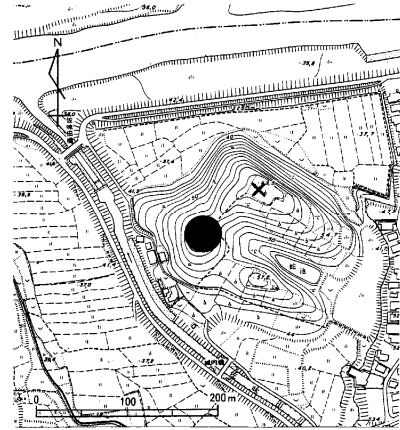
フジ山は東西に頂部を有する独立丘陵上の地形をしています。フジ山古墳は、このフジ山の西側頂部に位置しています。墳丘には周溝は巡っていませんが、東側に掘割があり、墳丘を区画しています。

フジ山古墳の墳頂部には東西 10m、南北 20m、深さ 1m の攪乱墳があります。現状では土器等の遺物や石室材等の散布は見られません。



フジ山遺跡ナイフ形石器



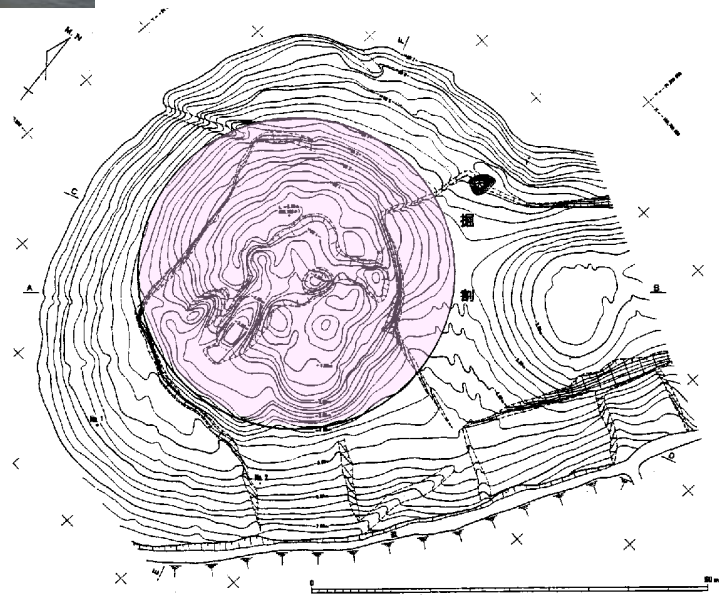


● = フジ山古墳  
 × = 石器採集地点

大和川とフジ山航空写真(西から)



大和川とフジ山(西・潜水橋から)



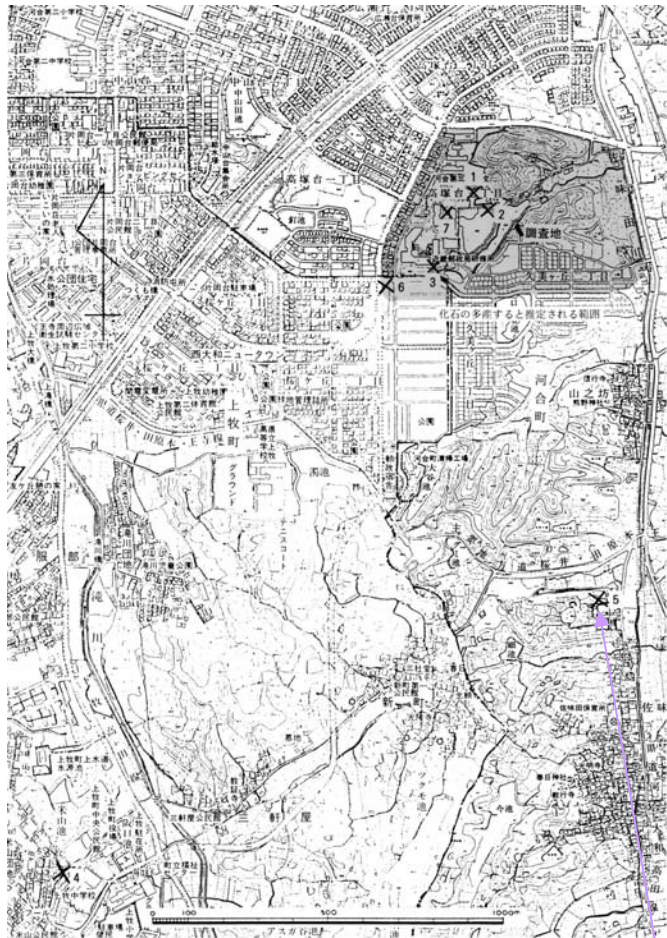
フジ山古墳測量図

おおがたどうぶつかせきしゅつどち  
**大型動物化石出土地**

所在地：高塚台・久美ヶ丘周辺  
種 別：大型化石出土地  
時 代：100万年～80万年前  
規 模：東西約 800m×南北約 400m

大正 15 年(1926)2 月 10 日、穴闇西山でブドウ畑の開墾中にシガゾウの門歯(牙)の化石が発見されました。この化石は今から 130 万年～140 万年前のものと推定されています。出土した場所は現在の高塚台で、河合第三小学校の南側です。他にも河合町で 5 箇所、上牧町で 2 箇所からシカマシフゾウ等の大型動物化石が出土しています。

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館に収蔵されているシガゾウ・シカマシフゾウの化石は奈良県指定文化財(天然記念物)に指定されています。



**大型動物化石の産出地点**



**佐味田出土旧ゾウ化石**